

復 命 書

平成 年 月 日

日進市議会議長 福岡幹雄様

会 派 名 新政ひまわり

会派代表者名 近藤 ひろき 印

出張期間

7月 5日 1日間

出張先

- ・愛知県立三好養護学校
- ・社会福祉法人愛光園
- 「ひかりのさとファーム」

参加者

近藤ひろき ・ 古谷のりお ・ 大橋ゆうすけ

用 務

- ・養護学校卒業時の進路指導の現状について
- ・施設見学と事業所の概要について

復命事項

別紙参照

※別添資料

●愛知県立三好養護学校視察

平成23年7月5日（火）AM10：00～12：30

視察事項「養護学校卒業時の進路指導の現状について」

愛知県立三好養護学校は、豊田市、日進市、みよし市、豊明市、東郷町、長久手町他の地域の6歳から18歳の知的障害児が主に通学する学校である。小学部、中学部、高等部の3部から成り、通学児童384人、施設内学級（東名古屋病院、小原学園）の児童27人、訪問学級児童3人の計414人が通うマンモス校で、通常学級と重複学級、施設内学級、訪問学級合わせて82学級ある。職員数も教諭、事務職員、技師等総勢211人で児童の指導、サポートをしている。特に日進市周辺の自治体は人口増加地域ということもあり、障害者も同様の比率で増えていることや近年の医療の進歩から医師の診断の高度化による障害の発見もあり、障害を持つ児童の数は年々増加しているとのことであった。

施設と授業を見学させていただいた後に、視察事項の進路指導の現状と課題について担当の先生よりご説明いただいた。近年の経済不況と機械化、簡易作業の海外生産等により、企業への一般就労先を探すことが非常に厳しい現状をお聞きした。また、福祉施設への福祉就労は、通学地域の事業所数が足りなく行き場のない児童の無いように名古屋市内の事業所もあわせて受け入れ先を探す日々が続いているとのことである。平成22年度卒業生の進路は、卒業生数73人の内、一般就労は6人、学校へ進学1人、家庭（在宅介護等）3人、授産施設、更生施設等へ福祉就労などで63人である。

市内の障害児とその家族の支援策として、授産施設や更生施設など福祉事業所を設置もしくは誘致し、養護学校卒業後の進路と共に地域で支えることができる環境を整備することが本市の取り組むべき課題だと感じた。

●社会福祉法人 愛光園「ひかりのさとファーム」視察

平成23年7月5日（火）AM14：00～16：30

視察事項「施設見学と事業所の概要について」

社会福祉法人 愛光園は、昭和40年から重い障害を持つ子ども達の通園施設を始め、現在では総務部、障害者福祉支援事業部、療育相談事業部、高齢者保健福祉事業部で総勢462人（昨年3月）が働く福祉事業者である。今回視察で訪れた「ひかりのさとファーム」は、社会福祉法人愛光園の障害者福祉支援事業部、就労支援グループに属し、生活介護事業（定員18人）、就労移行支援事業（定員10人）、就労継続支援B型事業（定員12人）、日中一時支援事業（地域生活支援事業）、職場適応援助者による支援事業を行う事業所で、平成4年に開所し平成20年に現在の体制に移行、平成22年に就労継続支援B型事業を追加で開始した施設である。

施設は、敷地面積7727㎡、施設（木造平屋建550㎡、鶏舎907㎡、その他附属建物495㎡）で、職員は正職員12名、臨時職員18名、開所日は週5日（月曜から金曜）午前9時30分から午後4時までとなっている。

主な内容は、就労継続支援B型事業として平飼い養鶏と天然酵母パン工房と生活介護事業の自然食レストラン、自家焙煎コーヒー、名刺作成や会報、会議資料の印刷業務、ホームページなどのパソコンワークなどである。利用者の収入月額を障害者年金と給与合わせて10万円を目標にし、障害者の自立を目差した活動をしている。

事業所経営は、年間売上9000万円ほどで厳しい経営状況ではあるが、寄付金による資金支援やボランティアの方々からの人的支援による社会の支えで経営しているとのことである。自助、共助、公助の視点から障害者の暮らしを考えると、公的な支援として事業所を支える施策や事業所を起業しやすくする施策により、障害者の社会生活を支え、体に障害を持っていても生きることの障害にならないように支えあえる社会づくり、地域づくりに知恵を絞り汗を流さなくてはならないと感じた。